

研究課題（テーマ）		陣痛周期に伴う分娩第2期における児頭の下降と胎胞の再現 自然な分娩経過を再現した分娩模擬装置の開発	
研究者	所属学科等	職	氏名
代表者	看護学部	助教	西村 香織
分担者	看護学部 工学部 地域連携センター	教授 講師	松井 弘美 北島 友香 加藤 賢一
研究結果の概要			
<p>分娩は自然現象であるが、母子の生命にかかわる場面であり、正常な分娩介助を自律して行うことを業とする助産師の役割は大きい。現在、助産師養成課程において助産学生は分娩介助技術を修得することが必須である（保健師助産師看護師学校養成所指定規則）。</p> <p>一方で、近年、出生数総数は減り続け、2021年の人口動態統計では811,622人と過去最少となっている。今後は助産師も助産経験を積む機会が減ることが予想される中で、助産を学ぶ学生にとっても、より正確な介助技術の習得は喫緊の課題になっている。よって、よりリアルに分娩を模擬できる装置を使って、技術を効率的に習得することは大きな意義がある。現在、学内演習では、陣痛周期にあわせて、胎児の下降や胎胞が変化する自然な分娩経過を再現した模擬装置はなく、リアリティのある練習はできていない。</p> <p>分娩介助の中心となるのは子宮口全開大から児娩出までの分娩第2期であり、助産師は陣痛周期に伴う児頭の下降にあわせて、呼吸の誘導や会陰保護などの技術を行う。</p> <p><u>本研究は、助産学生が分娩介助の実習に向けて、分娩介助技術を習得する過程で活用するための分娩模擬装置を開発することを目的とした。</u></p> <p>その結果、以下の点に特化した分娩模擬装置の開発をすすめることができた。</p> <p>1点目は、陣痛周期に合わせて、児頭が回旋しながら下降してくる状況を再現できる装置の開発である。2点目は、分娩進行に合わせて児頭の排臨・発露が再現できる操作機構の開発である。</p>			
今後の展開			
今後は、分娩模擬装置を用いて一定条件のもとで、助産学生の分娩介助技術習得に向けた教育プログラムを開発していく予定である。			